

令和5年度（2023年度）行政評価シート【個表】

令和 5 年 8 月 7 日

評価対象事業		評価者	総務課担当課長 藤田 聡一郎	
総務-05	統計事務	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	総務課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	行財政運営	施策の方針	行財政運営

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民等の利用や、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とする。
効果	市民等に情報提供し、各種施策の基礎資料として利用する。

2 令和4年度(2022年度)に実施した事業の概要

- ・統計調査を行うための基本的な管理事務を行った。
- ・統計情報を広く提供した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和4年度		令和5年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	統計事務	統計調査を行うための基本的な管理事務(調査員の募集管理等)	登録調査員の人数	111 / 130	130		
				1 / 1	122		
02		統計情報の提供(消耗品費)	ホームページへのアクセス数	5,555 / 7,500	7,500		
				67 / 68	68		
03				/			
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	9 / 7	6		
			一般財源	59 / 62	184		
			事業費の合計(千円)	68 / 69	190		
		人件費(千円)		5,638	5,717		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.6	0.6	0.4	0.4		
会計年度任用職員	2.0	2.0	2.0	2.0		

## 5 評価結果

### (1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	統計事務	大規模統計調査においては、約100～500名の調査員が必要となる。これに備えるため、予備を含め登録調査員数をより多く確保することを目標とする。	調査員の募集管理を行い、当年度に実施する各種統計調査に必要な人材を確保した。	調査を適切に行うために、一定以上の資質を維持したうえで、各種統計調査に必要な数の調査員を確保すること。
02		統計情報ホームページへのアクセス数から需要を捉え、品質向上に活用する。 令和2年度は国勢調査の実施年であることから、ホームページへのアクセス数が多く見られた。	庁内外での利活用を目的として統計データを広く提供した。	ホームページ等で公開している人口その他の統計データについて内容の充実を図り、効果的に発信することで、庁内外での利活用を促進すると共に、市民等の関心を高める。
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

### (2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
協働		協働実施済の場合のパートナー

### (3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・変更	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
<p>統計情報の提供手段として、各種統計データのホームページへの掲載や、オープンデータでの公開を行った。また、統計年報として「鎌倉の統計」を発行した。統計情報は庁内外で活用されるものであることから、デジタル化を進めるとともに内容の充実を図る。</p> <p>統計調査に従事する調査員は慢性的な人数不足と高齢化が解消されていない。周期的に行われる大規模統計調査を適切に遂行するため、一定の資質・適性を有する新たな調査員を確保していく。</p>					

**【参考】**

**◎事業実施に係る主な指標**

指標(単位)	登録調査員の人数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
大規模統計調査においては、まとまった調査員が必要となるため、登録調査員数を常時同数程度確保しておくことを目標とする。	目標値	100	100	130	130	150	150	
	実績値	75	126	111				
	達成率	75.0%	126.0%	85.4%				

指標(単位)	ホームページへのアクセス件数						単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
統計情報ホームページへのアクセス数から需要を捉え、品質向上に活用する。	目標値	8,641	8,641	7,000	7,000	7,000	8,500	
	実績値	8,641	6,843	5,555				
	達成率	100.0%	79.2%	79.4%				

**◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)**

比較事項	登録調査員の人数及びホームページへのアクセス件数						
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	逗子市	三浦市	
他市実績	111人	160人	93人	123人	29人	14人	
	5,555回	7,480回	1,970回	14,634回	3,610回	16,247回	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	登録調査員数は、人口や面積あたりの人数で比較すると他市よりも多い状況となっている。ホームページのアクセス数については、担当課以外の統計情報を掲載している三浦市が最多であった。今後内容の充実を図るとともに、オープンデータや各データ掲載ページとのリンクなど、アクセス性の向上についても併せて検討していく。
----------------------	--